建築・都市デザイン学

都市計画研究室

Urban Planning Laboratory

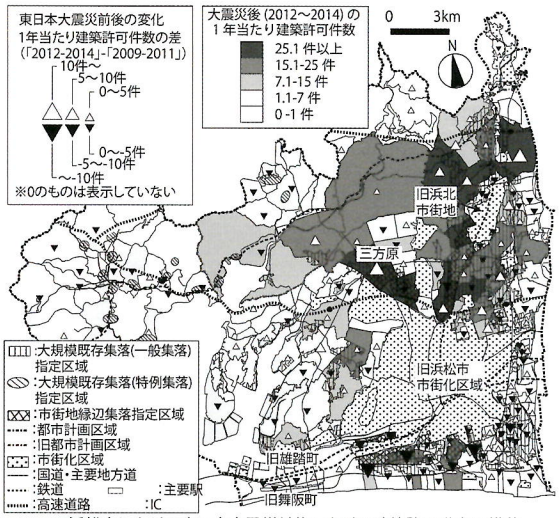
Staff ► 教　授:浅野純一郎(Junichiro Asano)
助　教:坪井　志朗(Shiro Tsuboi)

Key Word ►
土地利用計画、都市デザイン、都市計画史、防災計画、レジリエンス
Land Use Planning, Urban Design, History of Modern Urban Planning, Disaster Prevention Planning, Urban Resilience

E-mail ► asano@ace.tut.ac.jp(浅野)
tsuboi.siro.px@tut.jp(坪井)
Web ► http://urbandesign.web.fc2.com/MOTHER-hp/STU-hp/index.html

テーマ1 ► 土地利用計画研究
Theme1 : Study on Land Use Planning

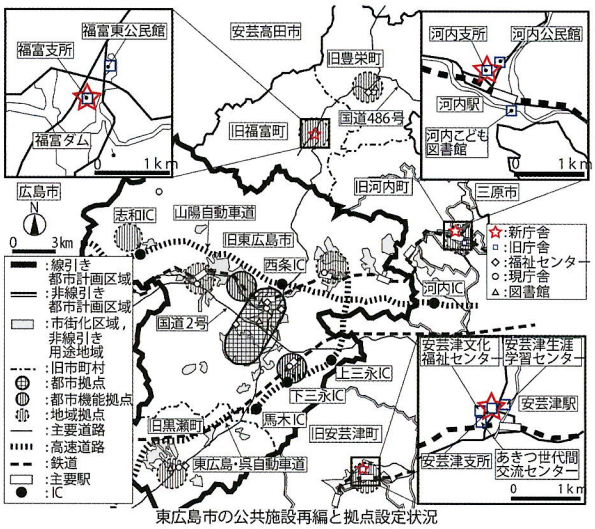
【研究概要】人口減少・経済低成長時代を迎え、従来の拡大型都市計画からの転換がはかられ、特に地方都市ではコンパクトで持続可能な都市が求められている。こうした都市づくりの是非に大きく影響するのが土地利用計画である。本テーマでは、地方都市の郊外土地利用計画に着目し、都市計画区域、線引き制度、開発許可制度、地区計画制度、立地適正化計画、自治体自主条例等の土地利用規制制度を精査しながら、開発の実態と制度・運用との齟齬を明らかにし、その問題点を追求する。2019～2020年度の課題として、立地適正化計画と法定都市計画運用との関係性、自治体自主条例の最新事情の把握等を掲げる。



浜松市における東日本大震災前後における建築許可動向の推移

テーマ2 ► 都市レジリエンス及び都市防災計画研究
Theme2 : Study on Urban Resilience and Disaster Prevention Planning

人口減少社会を迎え、将来予測の難しい不確実性の中で都市計画の立案が求められるようになってきた。また東日本大震災以降、都市防災計画の重要性は増している。本研究では人口減少社会への備えとして多面的な都市レジリエンスのあり方や災害発生要因の土地利用計画的検証から都市防災のあり方を検討する。2020-2022年度の課題として、災害危険区域における土地利用計画制度の適用状況、大規模盛土造成地における市街地展開と地盤改良のあり方に関する研究を掲げる。



東広島市の公共施設再編と拠点設定状況

テーマ3 ► 近代都市計画史研究、都市デザイン研究
Theme3 : Study on History of Modern Urban Planning and Urban Design

日本近代における都市計画思想や計画技術の適用経過と、それに伴う実態としての都市形成経過を、主に地方都市や植民都市を対象に史料発掘を含めて実証的に明らかにし、今日における意義を検証する。また、歴史研究は都市デザインとの親和性が高い。歴史的な観点を含めながら、豊かな都市空間の創出のために新たな価値や地域的な計画資源を発掘する。2021-2022年度の課題として、戦災復興都市の背割り通路整備の実態、公営住宅地整備と市街地形成経過の関係に関する研究を掲げる。

テニスコート上に建つ劣悪開発(左)、依然活発な郊外SC開発(中)、すでに衰退の始まったロードサイド型商業地(右)

「都市計画研究宣言:手段としては都市デザイン、精神としては地方都市主義、態度としては都市・建築味到!!」
これは、有名な「都市創作宣言」、「手段としては区画整理、精神としては小都市主義、態度としては都市味到」をもじったものです。
私共の研究スタイルを過不足なく示す宣言文として、掲載します。